

ものづくり人材育成

生産現場のものづくり力を高めるには、技能職一人ひとりの技能向上が欠かせません。そのため、「技能重視の風土の醸成」を基本方針とし、さまざまな施策に着手しました。

管理監督者については、強靱なものづくりをリードするために、製造現場を監督する力に加え、自身の専門技能も求められます。そこで監督者育成の場として、「専門技能伝承道場」を、各領域に順次立ち上げ、監督者の育成を図っています。

2019年には美和技術センターに「設備保全道場」を立ち上げ、設備保全員の早期一人前化をねらいに、座学と実技とともに学べる教育カリキュラムを整備しました。また、金型保全員の育成のため、西溝口工場に「金型保全道場」を設置し、2014年度から研修を開始。保全技能の基礎をしっかりと固め、レベルアップに取り組む仕組みを定着させました。

2017年度から、技能五輪への挑戦をはじめ、手探りでの選手育成のなか、2018年に初の全国大会出場、2019年には敢闘賞を受賞しました。参加して2年目の会社が入賞するのは異例の快挙で、ものづくりの人材育成に確かな手応えを感じる結果となりました。

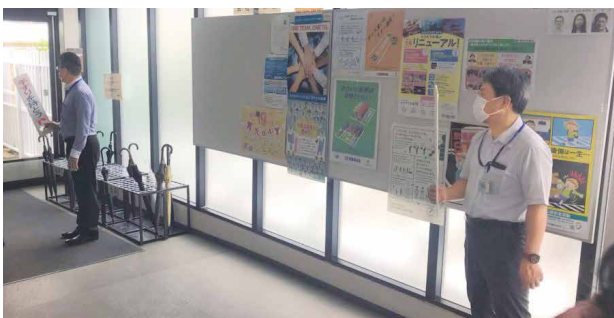


保全技能伝承道場での実習風景

災害「ゼロ」を目指して活動を推進

当社では、社長が全社総括安全衛生管理者として全拠点を通括し、「安全人づくり」と「安全職場づくり」の両輪で災害「ゼロ」を目指しています。

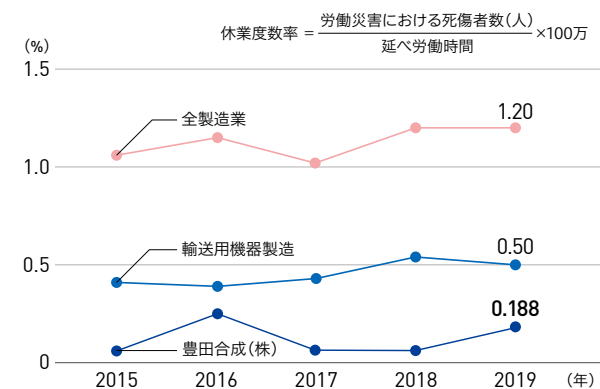
「安全人づくり」においては、2019年度も「階段の手すりを持つ」「止まれ箇所での一時停止・左右確認」を、立哨活動などを通じてルール維持・定着の向上に努めてきました。



立哨

「安全職場づくり」活動においても、重篤な災害(STOP7)につながる高リスク設備の安全化を目指し、逆KY(危険予知)の考え方を踏まえ作業のリスクアセスメントを行い、対象設備を洗い出し優先順位を明確にして対策を推進してきました。

労働災害発生率(休業度数率)の推移



グローバル統一の品質保証

品質基本方針のもと、開発から生産まで一貫して品質を保証しています。全拠点で品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001」「IATF16949」の認証を取得。TQM^{※1}の基本理念に基づき、拠点ごとに品質目標を立てて生産を行っています。また品質向上のノウハウやルールを盛り込んだ「品質システムグローバルスタンダード」を用いてグループ全社で品質を確保しています。

※1 品質向上のために“お客様第一”を基本に“絶え間ない改善”と“全員参加”により「品質・仕事の質」や「人と組織の活力」を高める活動(Total Quality Management)

TQMの基本理念

